

エチオピアへ毛布二万枚

官民合同対アフリカ救援

本会、直ちに協力

飢えや寒さに襲われているエチオピアに向け、東京布教区会員たちの手で毛布二万枚が送られることになった
(定立救済)



飢えや寒襲不息に加え、高原地帯の寒さ苦しむエチオピアの被災民救援のため「毛布二万枚を送る運動」が官民一体となってスタートした。この運動に対し、本会は積極的な支援、東京布教区(三十三教会)の会員たちの協力、毛布二万枚が都内全域から集められ、二丁目、成田発のチャーター機でエチオピアに向け、空輸されることになった。官民合同の対アフリカ救済の第一弾として、本会の迅速な対応に内外から大きな注目が寄せられている。

輸送費一千万円
は平和基金から

エチオピアはの十年間、毎年のように干ばつの被害を受けているが、今年に入り事態は一層深刻化している。ユニセフ(国連児童基金)の調べによると、同国北部のティグレ、ウォロ、エトリリア三州の被害は甚大で、毎日、数多くの被災民が飢えを衰弱のために死んでいくという。現在、干ばつと飢えは北部各州から、東部、南部へと急

速に拡大している。
被災キャンプへは大半が自

米箱のままのボロをまとい、
*

民間の協力を得て 日本の使命を全う

安倍外務大臣の語。今日、我が国は先進工業国として経済的に世界をリードしていきべき立場にあります。同時に、一國の繁栄のみならず、世界全体の平和と安定のため、応分の努力を払っていくべきではない、というのが国



安倍外務大臣

救援の方途を探るため、外務省と民間団体で「アフリカ支援委員会調査団」がアフリカ六カ国に派遣されました。その後、今回ユニセフのク

やつとの思いでキャンプにたどりつく。軽度の栄養不良による体の衰弱に加え、肉体的・精神的な疲労、エチオピアは赤道に近いとはいえ、国土の半分以上が高原で、標高二、千メートルを超える冷涼な部分約四分の一の面積だ。収容キャンプのテントに入らず地面に横たわる被災民たちへ寒さは厳しく、夜間の冷え込みはよぶよぶ、息を引き取るという悲惨な結果も相次いでいる。

こうした緊急な援助を要する事態に対して去来月、官民合同の援助体制を築く目的で設置された「アフリカ飢饉救済のための連絡委員会」が

被災地には新年早々に到着

同布教区各教会の会員たちが集めた毛布はブロック別

(六ブロック)にまとめ、十五日までに東京・深川の目黒商事で梱包、二丁目、同連動員体化の第一弾として成田発のチャーター機でエチオピアへ空輸される。現地の被災キャンプまでの陸路輸送は、ユニセフが担当し、新年早々に被災民たちに送り届けられる予定だ。また、現地には本会から、代表が派遣される。